



「種子の旅」 その3 植物はどうやってひろがる?!

水によって運ばれる種子

水のかで運ばれる果実や種子には、雨水や川の流れ・海流・湖沼の水で運ばれるものがあります。特徴として、胚・胚乳を覆っている皮(種子なら種皮、果実なら果皮と種皮)の一部が厚く、空気を多く含んだスポンジ状組織になっているものがあります。これで全体の比重が軽くなり、水流に乗りやすく、岸に打ち寄せられやすくなるようです。果実ではアダンやヤシ類・サガリバナ・モモタマナなど、種子ではハマオモトなどがあります。また、アダンの



モモタマナ



モモタマナ



ネコノメソウ

果実は、外側がオレンジ色の甘い果肉になっているので、動物も散布に関わっているようです。



アダンの実

林の中で見られるネコノメソウの仲間などは、上向きのカップのように開いた果実に、小さな種子が入っています。雨が降ると、カップに溜まった水といっしょに種子があふれ出し、地表を流れていきます。

震動で運ばれる種子



ナガミヒナゲシの花と実

風などによって茎が振動したときに果実から種子がこぼれ落ちるタイプの植物もあります。このような植物には次のような特徴が見られます。

(1) 果実がついている茎は、ひよろ長く直立する(果実が熟するときには枯れて乾燥していることが多い)

(2) 種子の出口は狭かったり上向きだったりして、振動がないときには果実から出られないようになっている。

動けない植物が移動できるチャンスは、花粉を出す時と種子を出す時の2回。子孫の移動のために実に様々なしくみを持っているのですね。

(文責：玉村かおり)